



# 図書だより



3月になりました。とうとう、今年度最後の図書だよりとなります。今年度は、新型コロナウイルス感染症のため少し遅めに学校生活がスタートしました。皆さんにとって、どんな1年だったでしょうか。たくさんの制限がありました。自分で考え様々なことに挑戦したことと思います。

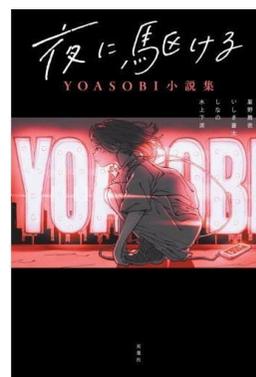
図書室では、新たな本が年間で200冊ほど入りました。また、貸し出し冊数が昨年の256冊を超え、341冊となりました。来年度もさらに利用者が増えることを願っています。4月以降も、たくさんの本が入ってきます。ぜひ、足を運んでみてくださいね。

## 新着図書

タイトル	著者	出版者
精神科医が教えるストレスフリー超大全	樺沢柴苑	ダイヤモンド社
感染症とワクチンについて専門家の父に聞いてみた	さーたり	KADOKAWA
野良犬の値段	百田尚樹	幻冬舎
ゴミ人間 日本中から笑われた夢がある	西野亮廣	KADOKAWA
仕事で大切なことはすべて尼崎の小さな本屋で学んだ	川上徹也	ポプラ社
ペルソナ 脳に潜む闇	中野信子	講談社現代新書
手のひらの音符	藤岡陽子	新潮文庫
もしもし、運命の人ですか。	穂村弘	角川文庫
パラレルな世紀への飛躍	太田光	集英社文庫
食べることと出すこと	頭木弘樹	医学書院
夜に駆ける YOASOBI 小説集	星野舞夜 他	双葉社
花束みたいな恋をした	黒住光	リトルモア

## おすすめの本

夜に駆ける YOASOBI 小説集 / 星野 舞夜 他 / 双葉社



2020年に「夜に駆ける」で大ヒットした YOASOBI の曲のもととなった小説集です。きっと一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。「夜に駆ける」の原作である、「タナトスの誘惑」を読んでから MV とともに曲を聴くとまるで変わった印象を持ちます。「夢の雫と星の花」は予知夢に奔走する二人の青春物語です。曲の「あの夢をなぞって」には描かれなかった部分を読み解くことができます。男女の別れを描いた「たぶん」や、発売当初、未発表曲の4つの物語が収録されています。また、巻末には、YOASOBI の二人によるインタビューも収録されています。小説と曲、そして MV すべてを通して楽しむことができる1冊となっています。

仕事で大切なことはすべて尼崎の小さな本屋で学んだ

川上 徹也 / ポプラ社



特に目標もなく、なんとなくある企業に就職した主人公。研修を終え、配属先が決まりますが、不満しかない様子。しかし、そこで取引先として出会った小さな書店の店主の小林さん。小林さんの話を聞く中で、主人公は、仕事の向き合い方や、人とのかわり方を学ぶこととなります。尼崎にある「小林書店」でのエピソードをもとにしたお話です。これから、数年後には社会人となる皆さんにぜひ読んでいただきたい一冊です。



これからも、皆さんが素敵な本に出合えますように。